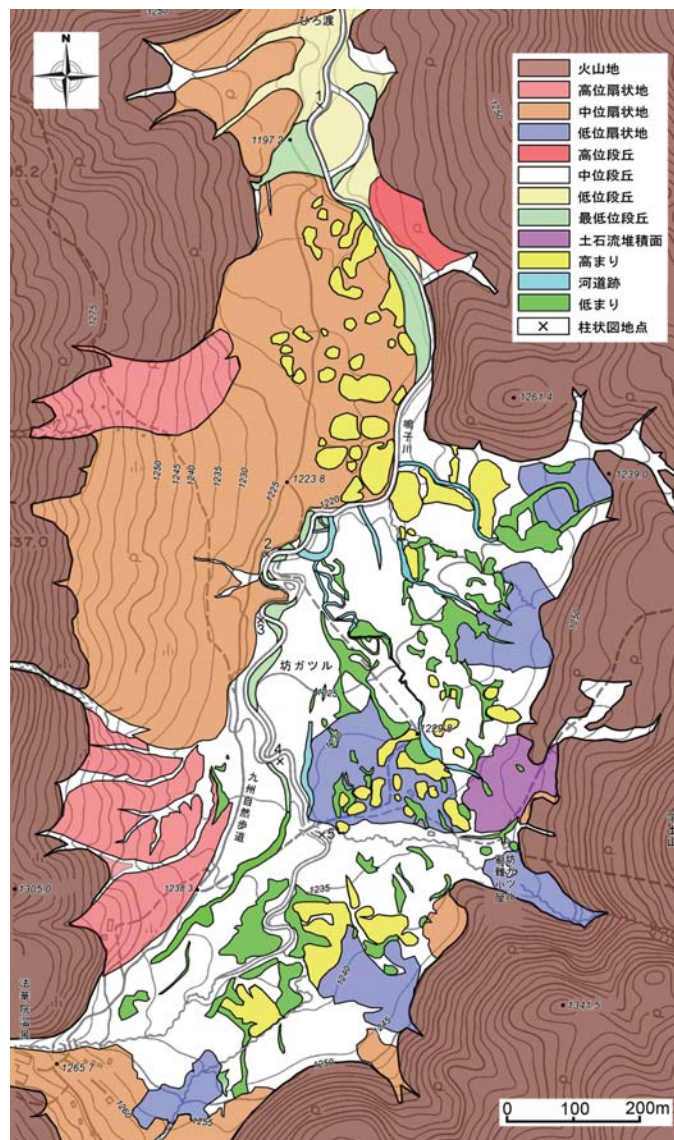


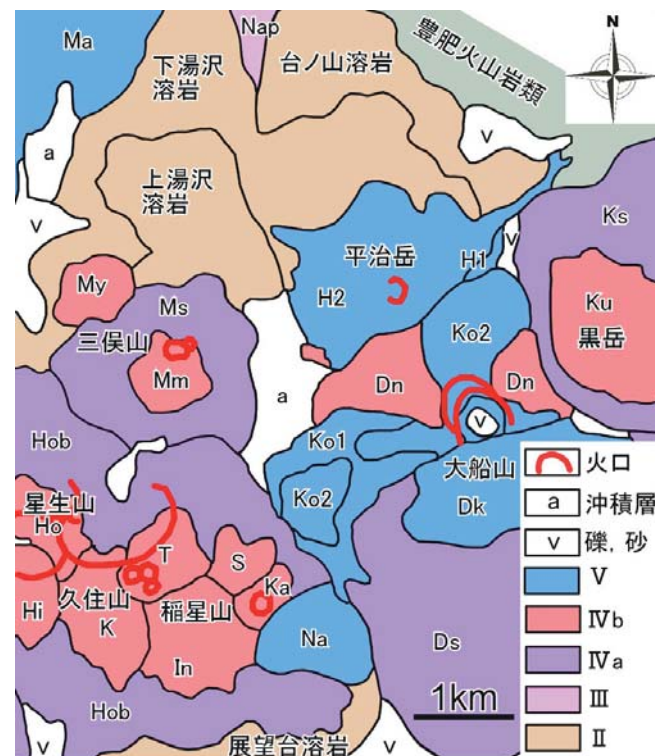
くじゅう坊ガツル地域の地形・地質



坊ガツル湿原の微地形



坊ガツル湿原内の鳴子川沿いの地層



坊ガツル湿原とその周辺地域の地質
(Ⅱ～Ⅴは九重火山群の活動時期)

坊ガツル湿原はくじゅう火山の長い活動の中で湯沢、三俣山、大船山、平治岳などの溶岩からなる火山体に囲まれた凹地としてつくられた湿原です。湿原は蛇行する鳴子川の河道を中心として、湿原内に広くみられる古い河道の跡や扇状地の下を伏流してきた地下水の湧出などがあり、それらにより湿原が維持されています。

周囲は大きな標高の火山体からなるため、削られた砂礫が湿原へと運ばれ、扇状地や、土石流に伴う流れ山としての高まりがつくられています。これらにより湿原は埋積の過程にあるといえます。

湿原の中を流れる鳴子川は、湿原を 2m 以上掘り下げています。そのため川沿いには湿原がどうしてできたかを知るための地層を観察できる崖があります。黒い地層と茶色の地層です。黒い地層は泥炭といって湿原の植物が倒れて積み重なったものです。茶色系統の地層は火山灰や川が上流から運んできた泥、砂、礫などです。これらは、湿原になったり、川が運んできた土砂により埋められたりしたことを示しています。



立中山からみた坊ガツル湿原

このページは、坊ガツル湿原を
周りの山々から写した写真です。
上は立中山から北方向をみたもの
です。湿原内を鳴子川が蛇行して
いる様子、湿原中に植物で緑色に
なった河道の跡、土石流による高
まりもみえます。左方の三俣山麓
の扇状地もよくわかります。



三俣山からみた坊ガツル湿原

中の写真は三俣山から東方向を
みたもの、下は平治岳から南方向
をみたものです。坊ガツル湿原が
周りの火山体に囲まれてつくられ
たことがよくわかります。またこ
れらの写真と、湿原とその周辺の
微地形とを合わせると、くじゅう
火山の中に貴重な湿原がつくれ
たこと、その内部がただ平坦な湿
原だけではなく、非常に細かな凹
凸に富んだ地形からなる貴重な湿
原であることがわかります。



平治岳からみた坊ガツル湿原